

カナダ 2019 年の相場展望

2018 年 12 月 20 日

<カナダでは堅調な経済環境を背景に 2019 年も複数回の利上げが見込まれる>

2018 年は堅調な経済環境などを背景に、カナダ銀行(中央銀行)は 1 月、7 月、10 月に各 0.25%ポイントの利上げを実施し、政策金利である翌日物貸出金利は 1.00%から 1.75%へ引き上げられました。2019 年についても、利上げサイクルの継続が見込まれ、2~3 回の追加利上げを想定しています。このため、金利については緩やかな上昇基調をたどると予想しています。

2019 年は、個人消費、設備投資、政府支出が経済成長率を押し上げる一方、原油価格の低迷や住宅市場の弱さが足かせになると想定しています。また、外需については依然として不透明感が強く、上振れ要因にも下振れ要因にもなりうると考えています。個人消費は引き続き経済成長をけん引する見通しです。カナダではここ数年、移民の増加が顕著になっており、人口増加に寄与しています。これにより労働力人口も拡大していますが、これを受け入れるだけの求人があり、失業率はデータ取得可能な 1976 年以来で最低の水準まで改善しています。雇用者数の増加が総賃金を押し上げ、個人消費の拡大につながることを期待されます。

2018 年の設備投資は伸び悩みましたが、2019 年は回復する見込みです。NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の不透明感などから設備投資が手控えられていましたが、2018 年 9 月末に USMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)に合意したことで大方の懸念は和らいだとみています。また、足元で設備稼働率が上昇するなど生産能力のひっ迫が見受けられ、生産能力の増強を目的とした投資が求められています。さらに、11 月に政府が設備投資の即時償却などを認める優遇税制を発表したことも、設備投資の拡大を後押しすることになると考えられます。ただし、原油価格の低迷によりエネルギー関連への投資が縮小するリスクには注意が必要と考えています。また、住宅ローン金利の上昇などこれまでの利上げの累積的な影響が出始めており、住宅市場にとっては重しになる可能性があります。

2019 年は米国の利上げ打ち止めが意識される可能性もあるため、米ドルが買われ続けることは想定しづらいとみています。そうした中、主要先進国で米国を除いて唯一利上げサイクルに入っているカナダの金利は相対的に魅力が高く、想定どおり 2~3 回の利上げができる道筋が立てば、カナダ・ドルが選好されやすい地合いになると考えられます。

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

《為替の推移》



《国債金利の推移》



以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management